

基準 3. 教育課程

3-1. 教育目的が教育課程や教育方法等に十分反映されていること。

(1) 事実の説明（現状）

《3-1の視点》

3-1-① 建学の精神・大学の基本理念及び学生のニーズや社会的需要に基づき、学部、研究科ごとの教育目的・目標が設定されているか。

- ・ 本学の理念は、「創造と調和」であり、また、教育理念は、「大同工業大学は、人類の幸福に貢献することを目的として、きたるべき時代に対応できる英知と問題解決能力とを兼ね備えた創造力に富む人材の育成を行う。」である。
- ・ 本学の教育目標は、
 - 豊かな教養を身に付ける
 - 基礎となる学力の向上に努める
 - 創造的な考え方を修得する
 - 活力のある自己を確立する である。
- ・ 学部においては、教育目標を達成するためのプロセスを詳細に記述した「標準教育プログラム」を各学科（専攻）で作成し、学生、教員及び事務職員に周知するためシラバスに掲載している。
- ・ 「標準教育プログラム」は、次のとおり作成されている。
 - ① 学科（専攻）ごとの教育目標及び人材養成目標を明確に定め、学生がその目標に到達するために最低限必要な学部4年間の標準教育課程を策定する。
 - ② 次に、この標準教育課程における教育内容の系統的課程に基づき授業科目を設定し、これを学年別に系統的に配当したコア・カリキュラムを作成する。
 - ③ 最後に、コア・カリキュラムから枝分かれする発展的・特殊専門的授業科目を設定し、これを学年別に系統的に配当する。
- ・ 「標準教育プログラム」は上記に加え、標準教育課程から見た教育課程の位置付け、教育課程構成の全体像、数種の履修モデル、各授業科目の学習到達目標をも明確に定めている。
- ・ 各教員はこの「標準教育プログラム」に基づき教育を実施しており、学生には履修ガイダンスで説明するとともに、1年次前期に開講する「A・A 세미나」（必修科目）等においても詳細に説明している。
- ・ 「標準教育プログラム」の概念図を図3-1-1に示す。また、「標準教育プログラム」における教育目標、人材養成目標の例を表3-1-1及び表3-1-2に示す。

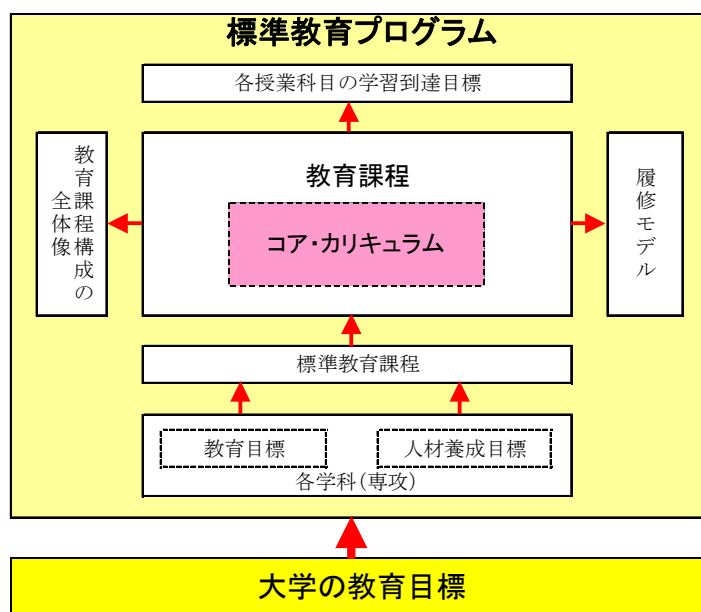


図3-1-1 「標準教育プログラム」の概念図

表3-1-1 学科の教育目標・人材養成目標の例
(工学部 機械工学科 機械工学専攻)

教育目標
① 地球規模での環境問題への理解を深め、環境にやさしい機械システムを創造できる能力、使命感、倫理観を学び、社会人としての素養を身につける。 ② 自ら取り組む課題に関する問題点や成果を論理的に記述、伝達、討論することができ、国際社会においても活躍できるコミュニケーション能力を身につける。 ③ 機械工学の基礎である材料力学、熱力学、流体力学、機械力学、機械設計学およびこれらを応用した科目の実践的学修により論理的な問題解決能力とコンピュータ利用・解析の能力を身につける。 ④ 機械工学の基礎知識に加えて、ものづくり工学に関連する分野、自動車、航空機などの輸送工学に関連する分野、環境に配慮した機械システム設計に関する分野の知識を学修し、幅広い問題解決に応用する能力を身につける。
人材養成目標
① 技術者としての豊かな教養と倫理観、ならびに確かな専門知識を持ち、環境問題や国際化に対応できる機械技術者。 ② 機械工学の基礎知識を身につけ、機械のしくみ、構造および機能などを分析、設計および製造ができる機械技術者。 ③ 21世紀の多様な価値観の時代に対応して、課題を理解、発見し、その解決能力およびコンピュータ処理技術を身につけ、自らが学び、考え、行動できる機械技術者。

表3-1-2 学科の教育目標・人材養成目標の例

(情報学部 情報学科 コンピュータサイエンス専攻・情報ネットワーク専攻)

教育目標
① ソフトとハード、理論と応用の両面を学習し、コンピュータの原理を理解する。 ② 徹底したプログラミング演習を通して、コンピュータの特性を深く理解する。 ③ 人工知能、組み込みコンピュータシステム、ネットワークプログラミングなどの高度・先進的なコンピュータ技術を学ぶ。 ④ 講義と演習による実践的教育により、課題探求能力と解決能力を身につける。
人材養成目標
① 情報処理、情報通信の分野でシステム構築・運用に携わる技術者。 ② 電子工学やハードウェアの技術に詳しい組み込みコンピュータ技術者。 ③ ネットワーク構造、ネットワークソフトの技術に詳しいネットワーク構築・運用技術者。 ④ 幅広いコンピュータ技術を基礎に、お客様に対応できるカスタマーエンジニア。 ⑤ コンピュータシステム導入・運用に関するコンサルタント、ビジネス企画提案者。 ⑥ コンピュータグラフィックス、Web技術に詳しい情報コンテンツのクリエイター。

- ・大学院においては、専攻ごとの教育目標又は教育方針等について、「大学院研究科便覧」に更に具体的に設定している。表3-1-3に工学研究科修士課程機械工学専攻の例を示す。

表3-1-3 専攻の教育目標等の例

(工学研究科修士課程機械工学専攻)

教育目標等
① 基礎学力を十分身につけた優れた応用開発能力を有する創造性豊かな機械技術者の養成を目的とする。 ② 機械工学の基礎学力を充実高度化させるとともに、自主的な問題解決能力と創造性を育成する。 ③ グローバルな視点に立った幅広い知識を修得させ、コミュニケーション力とリーダーシップを備えた人間性豊かな技術者を養成する。

《3-1の視点》

3-1-② 教育目的の達成のために、課程別の教育課程の編成方針が適切に設定されているか。

1) 学部

- ・「大学設置基準」第19条第1項の規定に基づき「大同工業大学学則」第10条におい

て、「教育課程は、本学の学部及び学科の教育上の目的を達成するために必要な授業科目を開設し、体系的に編成するものとする。」と定めている。

- ・また、3-1-①の「標準教育プログラム」の項に記述したとおり、教育課程は、学科（専攻）ごとの教育目標及び人材養成目標を明確に定め、学生が教育目標に到達するための学部4年間の標準教育課程を策定するとともに、この標準教育課程の教育内容に基づき授業科目を設定し、学年別に配当することにより教育課程を編成している。

2) 大学院

- ・「大学院設置基準」第10条の2の規定に基づき「大同工業大学大学院規則」第12条において、「本大学院は、研究科及び専攻の定める教育上の目的を達成するために必要な授業科目を開設するとともに学位論文の作成等に対する指導の計画を策定し、体系的に教育課程を編成するものとする。」と定めている。

《3-1の視点》

3-1-③ 教育目的が教育方法等に十分反映されているか。

1) 学部

- ・3-1-①の「標準教育プログラム」の項に記述したとおり、各教員はこの「標準教育プログラム」に基づき教育を実施している。また、学生には履修ガイダンスで説明するとともに、1年次前期には「A・A 세미나」においても詳細に説明している。
- ・各授業科目のシラバスには、授業科目名、単位数、開講期、担当教員、授業の概要、学習到達目標、毎回の授業内容、成績評価の方法、使用する教科書・参考書を記載している。

2) 大学院

- ・研究科及び課程の目的に沿って各専攻が教育目標・教育方針を詳細に定めており、各教員はこの方針に基づき教育を実施している。また、学生は、指導教員から履修すべき授業科目等について指導・説明を受けた後、履修計画を立てるシステムとなっている。
- ・各授業科目のシラバスには、学部同様に、授業科目名、単位数、開講期、担当教員、授業の概要、毎回の授業内容、成績評価の方法、使用する教科書・参考書を記載している。

(2) 3-1の自己評価

1) 学部

- ・大学の理念、教育理念、教育目標に基づき各学科（専攻）の教育目標・人材養成目標が更に具体的に設定されている。
- ・「標準教育プログラム」により、教育目標を達成するための教育課程、教育方法が十分に反映されている。
- ・「標準教育プログラム」は、全国的に見ても先進的な取り組みである。

2) 大学院

- ・大学の理念、教育理念、教育目標に基づき各専攻の教育目標等が更に具体的に設定されている。
- ・各専攻で定めた教育目標・教育方針に沿って、学部からの積み上げ式教育を意識した教育課程が編成され、教育方法にも十分反映されている。

(3) 3-1の改善・向上方策（将来計画）

1) 学部

- ・「標準教育プログラム」は、平成13年度に導入され既に6年が経過している。教育目標、人材養成目標の達成度の観点からの点検・評価を行い、その結果に応じて改善していく。

2) 大学院

- ・学部からの積み上げ式教育を目指した教育課程を編成していることから、学部改組に伴って各専攻の教育目標・教育方針を定期的に見直し、各研究科並びに修士及び博士後期課程の目的との整合を図っていく。

3-2. 教育課程の編成方針に即して、体系的かつ適切に教育課程が設定されていること。

(1) 事実の説明（現状）

《3-2の視点》

3-2-① 教育課程が体系的に編成され、その内容が適切であるか。

1) 学部

- ・「大同工業大学学則」第10条の2第1項において、「工学部及び情報学部の授業科目は、人間科学科目群の科目、A・A 세미나、総合科目の科目、専門基礎科目群の科目及び専門科目群の科目とする。」と定めている。また、「大同工業大学学則」第10条の2第2項において、「各授業科目は、必修科目、選択科目及び自由科目に区分し、これを各年次に配当して編成するものとする。」ことを定めている。
- ・更に、人間科学科目群は、Aグループ（言語系及び体育実技系科目）とBグループ（人文・社会科学系科目）に、専門基礎科目群は自然科学系、工学基礎系及び情報系に、専門科目群は基幹科目、展開科目、関連科目及び卒業研究に区分することにより体系的に編成している。教育課程の概念図を、図3-2-1に示す。

2) 大学院

- ・「大同工業大学大学院規則」第12条において、教育課程の編成方針が定められており、各専攻はそれに沿って教育課程を編成している。
- ・学部からの積み上げ式教育を意識し、特論、演習、特別研究の位置づけを明確にして教育課程を体系的に編成している。また、修士課程においては幅広い知識習得を促すために全専攻共通の授業科目を設定している。

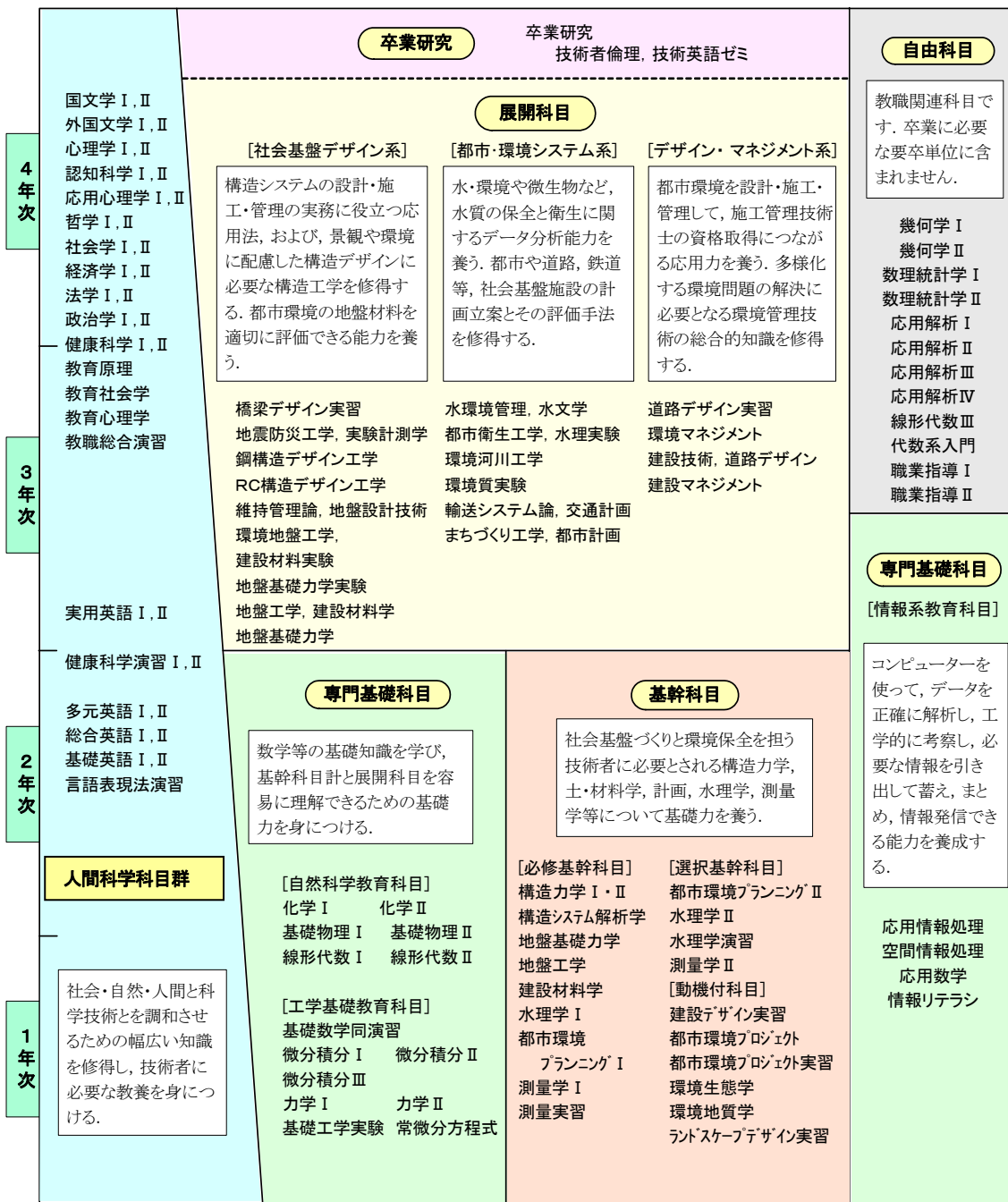


図3-2-1 教育課程の概念図 (工学部都市環境デザイン学科の例)

《3-2の視点》

3-2-② 教育課程の編成方針に即した授業科目、授業の内容となっているか。

1) 学部

- ・3-1-①の「標準教育プログラム」の項に記述したとおり、教育課程は、学科（専攻）ごとの教育目標及び人材養成目標を明確に定め、学生が教育目標に到達するための学部4年間の標準教育課程を策定するとともに、この標準教育課程の教育内容に基づき授業科目を設定し、学年別に配当することにより教育課程を編成している。
- ・「標準教育プログラム」で各授業科目の学習到達目標を定めている。また、各授業科目のシラバスにもこの学習到達目標を記載することにより、授業科目の内容が明確になっ

ている。更に、授業科目間の連続性や関係性も「標準教育プログラム」に明記している。

2) 大学院

- ・教育課程の編成方針は、前述のとおり「本大学院は、研究科及び専攻の定める教育上の目的を達成するために必要な授業科目を開設するとともに学位論文の作成等に対する指導の計画を策定し、体系的に教育課程を編成するものとする。」であるが、特論は知識の修得、特別演習は問題解決方法の修得、特別研究は問題解決の実践と位置づけ、授業科目の内容を明確に定めている。

《3-2の視点》

3-2-③ 年間学事予定、授業期間が明示されており、適切に運営されているか。

1) 学部

- ・学期、授業期間、休業日など重要事項については学則の規定に基づき決定し、履修ガイダンス期間、補講日、定期試験期間、成績発表期間、追試験及び特別追試験期間、特別集中補講期間等の事項については教務委員会において審議の上、決定している。
- ・これらの事項は、学生には「学生便覧」で、教員及び事務職員には「教務関係要覧」で明示している。更に、大学全体として作成している学年暦にも明示している。
- ・大学又は授業担当教員の事情により休講する場合には、補講を行うことを各学部の履修規程において定めており、完全に実施している。

2) 大学院

- ・学期、授業期間、休業日など重要事項については大学院規則の規定に基づき決定し、大学院に関する年間学事予定等については、大学院運営委員会において審議の上、決定している。
- ・これら年間の予定については、履修ガイダンスや各指導教員によって学生に周知されている。

《3-2の視点》

3-2-④ 年次別履修科目の上限と進級・卒業・修了要件が適切に定められ、適用されているか。

1) 学部

[単位の計算方法]

- ・単位は授業の方法に応じ、「大同工業大学学則」第11条に、次のとおり定めている。
- ・講義及び演習については、15時間又は30時間の授業をもって1単位とする。
- ・設計については、20時間の授業をもって1単位とする。
- ・実験、実習及び製図については、40時間の授業をもって1単位とする。
- ・卒業研究については、学修の成果を評価して単位を授与することとしており、6単位と定めている。
- ・なお、単位計算上の1時間は45分として計算しており、したがって、1授業時間は90分としている。

〔年次別履修科目の上限設定〕

- ・各学部とも履修登録単位数の上限は、各学期 20.5 単位である。ただし、この単位数には、自由科目、定期に開講しない授業科目及び他大学等で修得した単位で本学が認めた単位は含まないこととしている。
- ・なお、上述の履修登録単位数の上限には、次の例外を設定している。
- ・既に履修した授業科目のうち、成績評価が「不可」又は「不合格」となった科目を再履修する場合については、履修登録単位数の上限に加え、4 単位まで履修することができる。
- ・前学期において優れた成績をもって単位を修得した場合には、履修登録単位数の上限に 4 単位まで加えて履修することができる。

〔進級の要件〕

- ・各学部とも進級に対する制限はない。ただし、3 年次終了時に「卒業研究」（必修科目）を履修できるか否かを判定しており、これが実質的な 4 年次への進級制限となっている。
- ・各学部学科の定める卒業研究履修基準を、表 3-2-1 に示す。

表 3-2-1 各学部学科の定める卒業研究履修基準

学部名	学科名	単位数	必要な科目
工学部	機械工学科	人間科学科目群・専門基礎科目群・専門科目群（ただし、自由科目を除く）のうち、100 単位以上修得すること。	A・A セミナ
	ロボティクス学科		
	電気電子工学科		
	建築学科	人間科学科目群・専門基礎科目群・専門科目群（ただし、自由科目を除く）のうち、95 単位以上修得すること。	
	都市環境デザイン学科		
情報学部	情報学科	人間科学科目群・専門基礎科目群・専門科目群（ただし、自由科目を除く）のうち、100 単位以上修得すること。	

〔卒業の要件〕

- ・各学部とも卒業に必要な単位数は、124 単位である。在学年数は、4 年以上としている。
- ・上記に加え学部学科（専攻）ごとに、卒業の要件を課している。各学部学科（専攻）が定める卒業の要件を、表 3-2-2 に示す。

表3-2-2 各学部学科（専攻）が定める卒業の要件

学部	学科	専攻	A・A セミナー	人間科学 科目群	専門基礎 科目群	専門科目群	専門基礎科目群 及び専門科目群	
工学部	機械 工学科	機械工学 専攻	合格	28単位	自然科学系6単 位以上を含む 17.5単位以上	/	専門基礎科目群 の17.5単位以上 を含む96単位	
		先端機械工学 専攻			自然科学系6単 位以上を含む 17.5単位以上		専門基礎科目群 の17.5単位以上 を含む96単位	
	ロボティ クス学科	自然科学系6単 位以上を含む 17.5単位以上			専門基礎科目群 の17.5単位以上 を含む96単位			
	電気電子 工学科	自然科学系6単 位以上を含む 19.5単位以上			専門基礎科目群 の19.5単位以上 を含む96単位			
	建築学科	建築専攻			自然科学系6単 位以上を含む 12単位以上		「構造実験」「材料実 験」「建築測量学同 実習」の3科目のう ち、いずれか1科目 を必修とする。	専門基礎科目群 の12単位以上を 含む96単位
		福祉環境 専攻						
都市環境 デザイン 学科		自然科学系6単 位以上を含む 20.5単位以上	72単位以上(うち、展 開科目から32単位 以上、「建設材料実 験」「地盤基礎力学 実験」「水理実験」 「環境質実験」から3 単位以上)	合計96単位				
情報学部	情報学科	コンピュータ サイエンス 専攻	/	16単位以上	/	/	合計96単位	
		情報ネット ワーク専攻						
		メディア デザイン専攻						

2) 大学院

[単位の計算方法]

- ・単位は授業の方法に応じ、次のとおり「大同工業大学大学院規則」第12条の3に定め
ている。
- ・特別研究については、学修の成果を評価して単位を授与することとしており、1.5単
位と定めている。
- ・講義、演習及び輪講については、15時間の授業をもって1単位とする。
- ・実験、実習及び製図については、40時間の授業をもって1単位とする。

[年次別履修科目の上限設定]

大学院においては、設定していない。

[進級の要件]

大学院においては、設定していない。

[修了の要件]

- ・修士課程の修了の要件は、修士課程に2年以上在学し、それぞれの専攻の授業科目につ
いて、30単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けたうえ、本大学院の行う修
士論文又は特定の課題についての研究の成果の審査及び試験に合格することである。在
学期間に関しては、研究科委員会が特に優れた研究業績を上げた者と認めた場合には、
1年以上在学すれば足りることとしている。

- ・博士後期課程の修了の要件は、博士後期課程に3年以上在学し、専攻の授業科目について、8単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けたうえ、大学院の行う博士論文の審査及び試験に合格することである。在学期間に関しては、研究科委員会が特に優れた研究業績を上げた者と認めた場合には、大学院に3年（修士課程に2年以上在学し、当該課程を修了した者にあつては当該2年の在学期間を含む。）以上在学すれば足りることとしている。
- ・各専攻が定める修了の要件は、表3-2-3のとおりである。

表3-2-3 各専攻が定める修了の要件

研究科	課程	専攻	卒業の要件
工学	修士課程	機械工学専攻	1類(講義)科目から12単位以上、 2類(演習)科目から8単位以上、 3類(研究)科目から6単位
		電気・電子工学専攻	1類(講義)科目から10単位以上、 2類(演習)科目から10単位以上、 3類(研究)科目から6単位
		建築学専攻	1類(講義)科目から10単位以上、 2類(演習)科目から6単位以上、 3類(研究)科目から6単位
		都市環境デザイン学専攻	2類(演習)科目から6単位以上、 3類(研究)科目から6単位
	博士後期課程	材料・環境工学専攻	特論及び特別講義から4単位以上、 輪講から2単位以上、学外研修及び 特別調査演習から2単位以上
情報学	修士課程	情報学専攻	1類(講義)科目から12単位以上、 2類(演習)科目から8単位以上、 3類(研究)科目から6単位

《3-2の視点》

3-2-⑤ 教育・学習結果の評価が適切になされており、その評価の結果が有効に活用されているか。

1) 学部

〔成績評価〕

- ・各授業科目の成績評価は、「大同工業大学工学部履修規程」及び「大同工業大学情報学部履修規程」に定めているように各授業担当教員が、筆記試験、レポートを含めた学修状況を総合的に評価する方式により行っている。
- ・成績は、秀、優、良、可、不可の5段階の評語で評価し、秀、優、良、可を合格、不可を不合格としている。ただし、「 세미나」及び「卒業研究」についての評価は、合格、不合格としている。合格した授業科目については、所定の単位を授与することとしている。
- ・各評価の基準は、100点より90点までを秀、89点より80点までを優、79点より70点までを良、69点より60点までを可、59点以下を不可としている。
- ・上記のほか、「適正な成績評価に関するガイドライン」を平成18年度に定め、より厳

格な成績評価に努めている。同ガイドラインを表3-2-7に示す。

- ・同ガイドラインでは、各学部及び教養部は、開講する全ての授業科目の成績評価基準を定め「シラバス」に明示するとともに、授業を担当する教員は、この基準に従い成績評価を行うこととしている。更に、成績評価基準には、定期試験・レポート等の成績評価項目及び成績評価における各評価項目の比重等について定めることが望ましいとしている。

表3-2-7 「GPA制度導入に伴う適正な成績評価に関するガイドライン」(抜粋)

<p>(成績評価基準の設定と明示)</p> <p>2. 学部の各学科及び教養部の各教室は、それぞれが開講する全ての授業科目の成績評価基準を定めシラバスに明示する。授業を担当する教員は、この基準に従い成績評価を行うものとする。</p> <p>3. 前項の成績評価基準には、定期試験・レポート等の成績評価項目及び成績評価における各評価項目の比重、等について定めることが望ましい。</p> <p>(授業運営に関する留意事項)</p> <p>4. 同一授業科目において複数の授業を開講する場合には、その教授内容、定期試験等の内容、及び成績評価等に、授業による格差を生じないように努めるものとする。</p> <p>5. 同一授業科目において習熟度による複数の授業を開講する場合には、その教授内容、定期試験等の内容及び成績評価等に関して、授業担当者による協議により適正に評価するよう努めるものとする。</p>
--

[GPA (Grade Point Average) 制度と成績評価]

- ・学生に履修に対する責任を意識付けると同時に、学生個々人が自己の学修成果を「質」の面から客観的に知ること及びGPA値を種々の制度に利用することにより学生の学修意欲の高揚を図ることを目的に、平成18年度にGPA制度を導入した。
- ・GPA値は学期及び累積の2種類あり、その算出式は次のとおりである。等級点は、秀=4、優=3、良=2、可=1、不可=0である。

学期GPAは、

$$\frac{\{(その学期に履修登録した科目で得た等級点) \times (その科目の単位数)\} の合計}{その学期に履修登録した科目の単位数の合計}$$

累積GPAは、

$$\frac{\{(各学期に履修登録した科目で得た等級点) \times (その科目の単位数)\} の合計}{各学期に履修登録した科目の単位数の合計}$$

- ・2種のGPA値は、各学期に学業成績結果の通知書(「試験結果通知書」)で学生に明示している。

[成績評価結果の有効活用]

- ・成績評価結果に基づき作成される「試験結果通知書」を、各学期に指導教員から学生に渡している。この折、学修指導、履修指導を行っている。
- ・成績評価結果が各学科の定める基準を下回る場合においては、父母等が同席する学修指

導を実施している。

- ・学生の学修状況を父母に理解いただくことを目的に、学業成績表を学年終了時点で父母に送付している。
- ・更に、毎年開催する大学後援会主催の学生の父母を対象とする教育懇談会の個人面談において、学修状況を教員から説明している。
- ・GPA値は、上述の学修指導、履修登録単位の上限の緩和等に活用している。

2) 大学院

[成績評価]

- ・各授業科目の成績評価は、各授業担当教員が筆記若しくは口頭試験又は研究報告により行っている。
- ・授業科目の成績評価は、優、良、可、不可の4段階の評語で評価し、優、良、可を合格、不可を不合格としている。ただし、学位論文及び試験並びに博士後期課程における特別研究の成績評価は、合、否とし、合を合格、否を不合格としている。
- ・各評価の基準は、100点より80点までを優、79点より70点までを良、69点より60点までを可、59点以下を不可としている。
- ・各授業のシラバスに掲載する成績評価基準には、定期試験・レポート等の成績評価項目及び成績評価における各評価項目の比重について明示している。

[成績評価結果の有効活用]

- ・成績評価結果に基づき作成される試験結果通知書を、学部同様に各学期に指導教員から学生に渡している。この折、学修指導、履修指導を行っている。

《3-2の視点》

3-2-⑥ 教育内容・方法に、特色ある工夫がなされているか。

1) 学部

[全学的な教育改善活動]

- ・平成11年6月、「入学者の質の急激な変化に対応したカリキュラム、教授方法、学修体制の再構築」を命題とする全学的委員会である「教育体制改革委員会」を発足し検討を重ねた結果、平成11年11月に学長に対する答申として「教育体制の改革について——学生と真に向き合うための教育システムの構築 / あるいは学ぶことの喜びに向けて——」が提出され、本学の教育体制の基本方針と目指すべき方向が示された。
- ・平成11年12月には「教育体制改革委員会」を発展的に解消し、これに引き続く「教育改革実行委員会」を発足し、従来各学科や各教員に任されてきた教育目標、教育課程表、学修到達度について、上述の「答申」に基づき学科ごとに見直し、「標準教育プログラム」を作成した。
- ・これら「教育体制改革委員会」、「教育改革実行委員会」を通じて決定された「標準教育プログラム」に基づいた教育を、平成13年度から実施している。

〔全学的な取組〕

○「標準教育プログラム」と学習到達度自己評価

- ・3-1-①の「標準教育プログラム」の項において詳述したとおり、本学では「標準教育プログラム」に則り教育課程を編成するとともに、各授業科目に定めた5～9項目の学習到達目標に基づき授業を実施している。
- ・学習到達度自己評価は、各授業科目の学習到達目標に対する理解度、到達度についての学生自身の自己評価であり、学期の最後にセミナー系科目、教職科目及び自由科目を除く全ての授業科目について、アンケート形式で毎学期これを実施している。
- ・このアンケートにより、学生は授業科目ごとに設定されている学習到達目標に対する理解度をそのつど自己評価し、評価の低かった到達目標について自己反省と自己分析を行う。そしてその評価を次なる学修に繋げていく。
- ・一方、各授業担当教員は、アンケート結果と成績評価とを照らし合わせることによって、個々の学生に則したきめ細かな学修指導を行っている。

○「A・A 세미나」及び「言語表現法演習」の導入

- ・本学では、全学共通の導入科目として「A・A 세미나」及び「言語表現法演習」を1年次に開講している。
- ・「A・A 세미나」は、学修支援科目として昭和56年に導入し、以後25年間継続してきた。この授業科目は、指導教員制度と連動した授業科目であり、現在では、1年次前期に開講（情報学部情報学科メディアデザイン専攻では「基礎演習Ⅰ」）し、1教員あたり7～8人の指導学生に対し、大学生活、学修全般に対するアドバイスを行っている。
- ・1年次後期には、「A・A 세미나」と同一の教員が授業を担当する日本語教育科目として「言語表現法演習」を開講している。この授業科目では、教員が作成した全学共通のテキスト（「言語表現法演習ワークブック」及び「言語表現法演習教員用ガイドブック」）を用いている。

○学習支援システム

- ・本学では、基礎的学力の理解度が十分でない学生の学習を支援するための組織として「学習支援センター」を平成15年度に開設した。
- ・現在1年次生を主な対象として、英語、数学、物理等の教科について、個別の学習支援を中心に行っている。
- ・「学習支援センター」のスタッフは、各授業科目の担当者や指導教員と連携し、「標準教育プログラム」を消化しきれず、理解が十分でない学生に対して、個別のプログラムを組み学習の支援を行っている。この詳細については、基準4の4-2に記述する。

[J A B E E (日本技術者教育認定機構) への学科の取組み]

- ・都市環境デザイン学科は、3-1で述べた標準教育プログラムに基づき編成した教育プログラムに対して、平成18年度にJ A B E Eの「技術者教育プログラム(土木および土木関連分野)」審査を受けて、認定された。引き続き、「オンライン授業支援システム(学科内専用のイントラネットシステム)」を用いて教育改善等に努めている。

2) 大学院

- ・特論、特別演習、特別研究の位置づけに沿って、また、毎学期行われる大学院学生による授業評価の結果も反映し、各授業担当教員が工夫を行っている。

《3-2の視点》

3-2-⑦ 学士課程、大学院課程、専門職大学院課程等において通信教育を行っている場合には、それぞれの添削等による指導を含む印刷教材等による授業、添削等による指導を含む放送授業、面接授業もしくはメディアを利用して行う授業の実施方法が適切に整備されているか。

*本学では通信教育を行っていないので、本視点の評価には該当しない。

(2) 3-2の自己評価

1) 学部

- ・教育課程の編成方針に即して体系的かつ適切に教育課程が編成され、また、編成方針に即した授業科目、授業内容となっている。
- ・年間学事予定、授業期間、定期試験期間等が明示されており、かつ、適切に運営されている。
- ・年次別履修科目の上限設定、卒業の要件は適切に設定され、厳格に適用されている。
- ・進級の要件については本学では設定していないが、必修科目である「卒業研究」の履修基準が実質的な4年次への進級の制限になっている。
- ・教育・学習結果の評価も適切になされている。また、その評価結果は有効に活用されている。

2) 大学院

- ・学部同様に、教育課程の編成方針に即して、体系的かつ適切に教育課程が編成され、また、編成方針に即した授業科目、授業内容となっている。
- ・年間学事予定、授業期間、定期試験期間等が明示されており、かつ、適切に運営されている。
- ・修了の要件は適切に設定され、厳格に適用されている。

(3) 3-2の改善・向上方策 (将来計画)

1) 学部

- ・近年の入学者における基礎学力の多様化に伴う教育課程の見直しについて、現在検討を進めているところである。今後も継続して取り組む。
- ・人間科学科目群の一部の授業科目について、開講年次が明確となっていない。この点を改善する方向で検討している。

2) 大学院

- ・平成21年度に向けた教育課程の見直しについて、現在各専攻で検討を進めている。

[基準3の自己評価]

1) 学部

- ・本学が独自に開発した「標準教育プログラム」により、教育目標、人材養成目標に基づく一貫した教育が行われている。

2) 大学院

- ・教育目標を達成するために、統一した科目分類と科目の位置づけを明確に行っている。
- ・また、修士課程においては幅広い知識習得を促すために全専攻共通の授業科目を設定している。

[基準3の改善・向上方策 (将来計画)]

1) 学部

- ・「標準教育プログラム」は、平成13年度に導入され既に6年が経過している。教育目標、人材養成目標の達成度の観点からの点検・評価を行い、その結果に応じて改善していく。
- ・教育課程については、入学者の基礎学力の多様化に応じた継続的な改善を行う。

2) 大学院

- ・最近の学部改組との関連で、教育課程を実施するための教員が適切に配置されているかの検証を常に行う。
- ・学部からの積み上げ式教育と大学院での研究を効果的に遂行するための教育課程になっているかをきめ細かく継続的に検討していく。